

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する特別世論調査の詳細結果（男女別、年齢別）について

平成 20 年 8 月 7 日
内閣府男女共同参画局

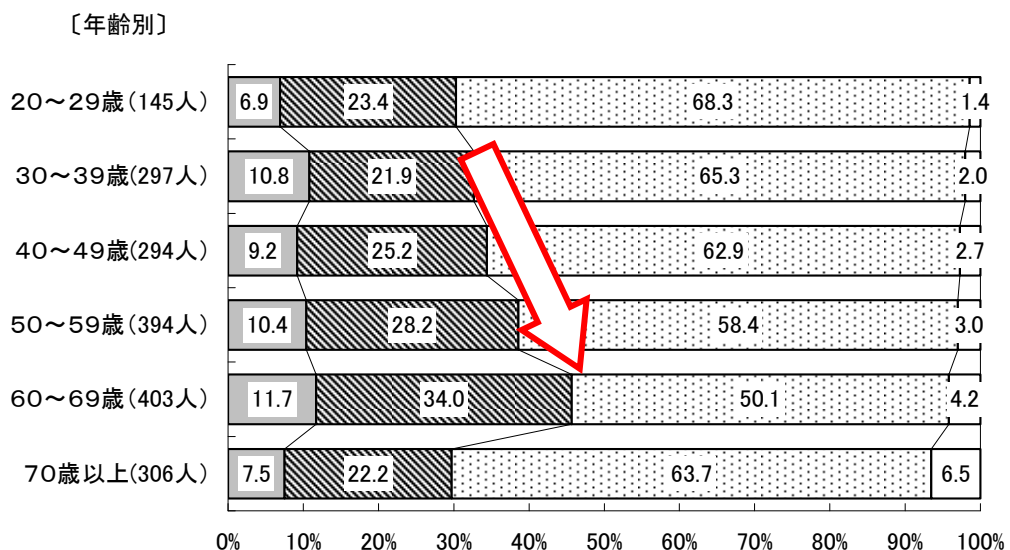
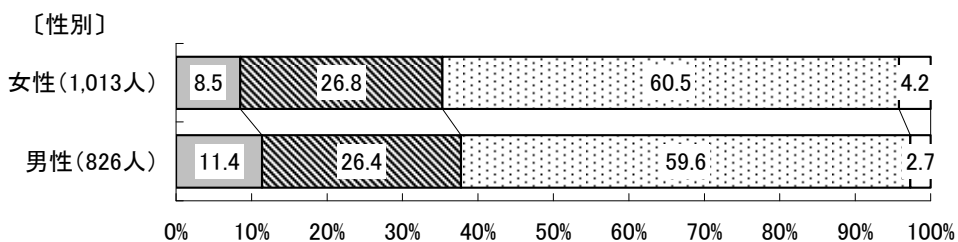
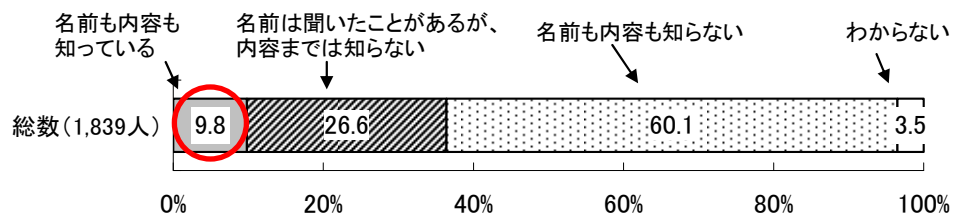
《主なポイント》

- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の名前を聞いたことがある人の割合は約 4 割であり、60 歳代までは年齢が高いほど割合が高くなる。（P 2 参照）
- 男性の 20 歳代～40 歳代は希望に反して仕事中心になっている人が多い。（P 6 参照）
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のうち、「仕事」を優先したい人又は現実に優先している人の割合は、前回調査に比べて減少。特に男性では「仕事」優先が減り、「家庭生活」優先が増えている。（P 7 参照）
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している人の割合は、前回調査に比べて増加している。（P 7 参照）
- 「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなど」のための時間が取れている人の割合は 30 歳代、40 歳代で低い。（P 10 参照）

(1) 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度

《ポイント》

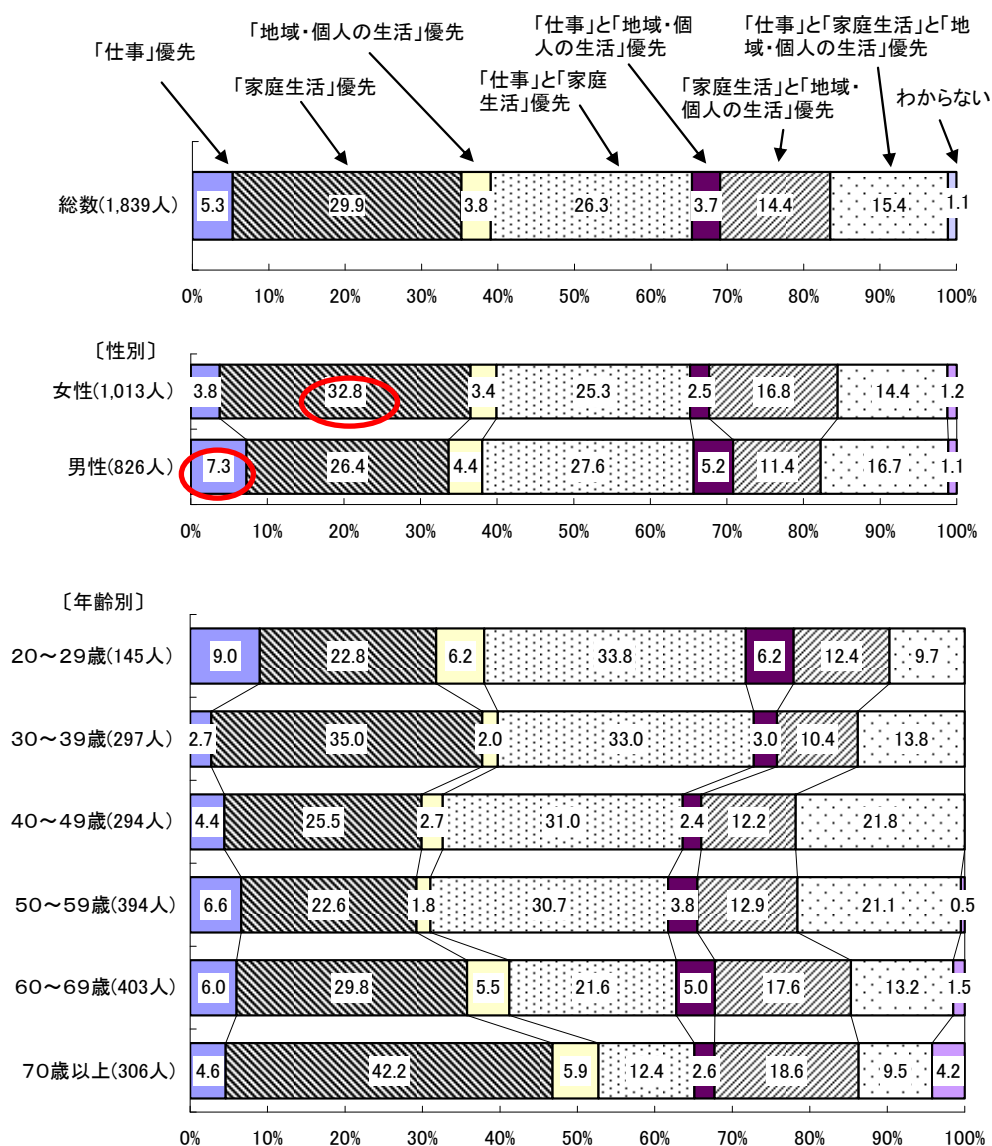
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の名前を知っている人の割合は約4割となっているものの、内容まで知っている人の割合は約1割にとどまっている。
- 年齢別にみると、60歳代までは年齢が高いほど、名前を知っている人の割合が高くなっている。



(2) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のどれを優先したいか
(希望優先度)

《ポイント》

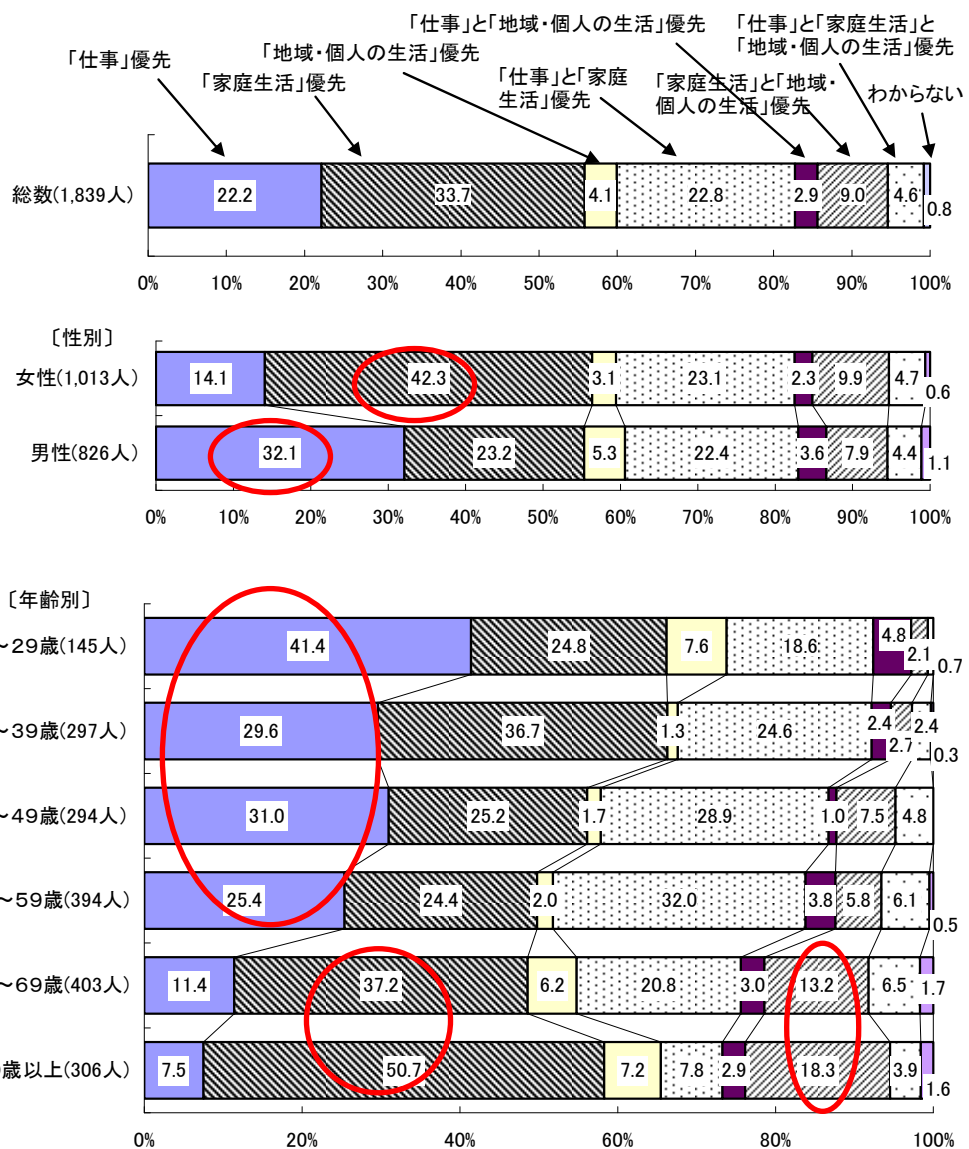
- 総数では、「家庭生活」を優先したい人の割合が 29.9%と最も高く、「仕事」と「家庭生活」を優先したい人の割合が約 26.3%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をとともに優先したい人の割合が 15.4%と続いている。
- 男女別にみると、「仕事」を優先したい人の割合は女性より男性で、「家庭生活」を優先したい人の割合は男性より女性で、それぞれ高くなっている。



(3) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のどれを現実に優先しているか（現実）

《ポイント》

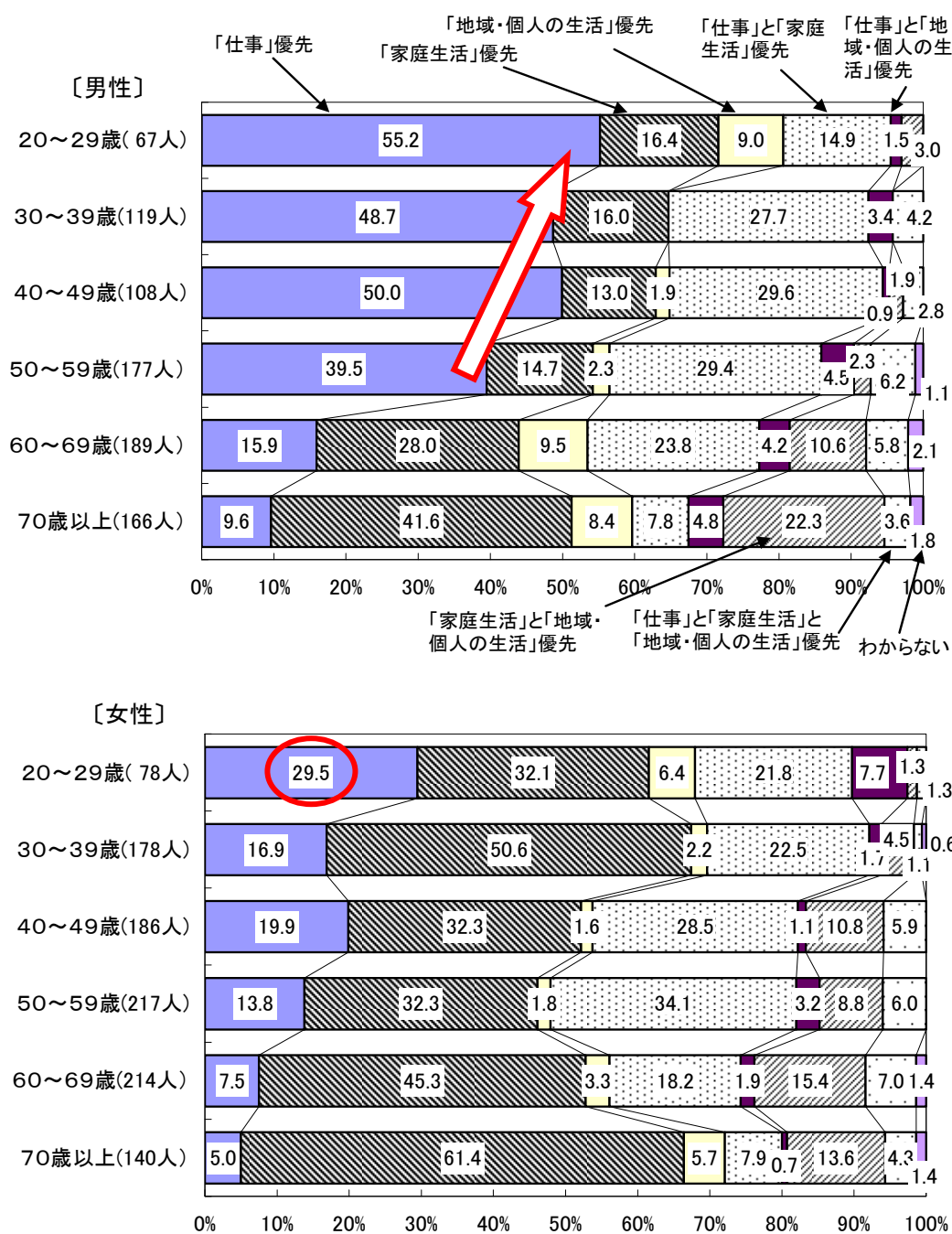
- 総数では、現実に「家庭生活」を優先している人の割合が33.7%と最も高く、「仕事」と「家庭生活」を優先している人の割合が22.8%、「仕事」を優先している人の割合が22.2%と続いている。
- 男女別にみると、男性では「仕事」を優先している人の割合が、女性では「家庭生活」を優先している人の割合が、それぞれ最も高くなっている。
- 年齢別にみると、「仕事」を優先している人の割合は20歳代～50歳代で高い。また、60歳代、70歳以上では、他の年代に比べて「家庭生活」を優先している人の割合及び「家庭生活」と「地域・個人の生活」をとともに優先している人の割合が高い。



(3) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のどれを現実に優先しているか（現実）の続き

《ポイント》

- 男性の20歳代～50歳代では、「仕事」を優先している人の割合が高く、年齢が低いほど概ねその割合が高い。特に20歳代～40歳代では、「仕事」優先が5割程度と仕事中心となっている。
- 女性でも20歳代では、「仕事」を優先している人の割合が約3割と高い数値になっている。



(4) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現実の乖離

《ポイント》

- ① 「仕事」を優先したい人の割合に比べて、現実に優先している人の割合が高く、希望に反して仕事中心になっている人が多い。特に、20歳代～40歳代の男性でその割合が高い。
- ② 「家庭生活」を優先したい人の割合に比べて、現実に優先している人の割合は女性で高く、希望に反して家庭生活中心となっている。
- ③ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい人の割合に比べて、現実に優先している人の割合は低い。

	希望と現実の乖離 (当該項目を現実に優先している人の割合から優先したいと希望している人の割合を差し引いた値)						
	「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」	「仕事」と「地域・個人の生活」	「家庭生活」と「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
総数	16.9	3.8	0.3	▲ 3.5	▲ 0.8	▲ 5.4	▲ 10.8
[性別]							
男性	24.8	▲ 3.2	0.9	▲ 5.2	▲ 1.6	▲ 3.5	▲ 12.3
女性	10.3	9.5	▲ 0.3	▲ 2.2	▲ 0.2	▲ 6.9	▲ 9.7

「仕事」の希望と現実の乖離

総数	16.9
[年齢別]	
20～29歳	32.4
30～39歳	26.9
40～49歳	26.6
50～59歳	18.8
60～69歳	5.4
70歳以上	2.9
[性・年齢別]	
(男性)	24.8
20～29歳	40.3
30～39歳	44.5
40～49歳	44.4
50～59歳	29.3
60～69歳	9.0
70歳以上	4.8
(女性)	10.3
20～29歳	25.7
30～39歳	15.2
40～49歳	16.1
50～59歳	10.1
60～69歳	2.4
70歳以上	0.7

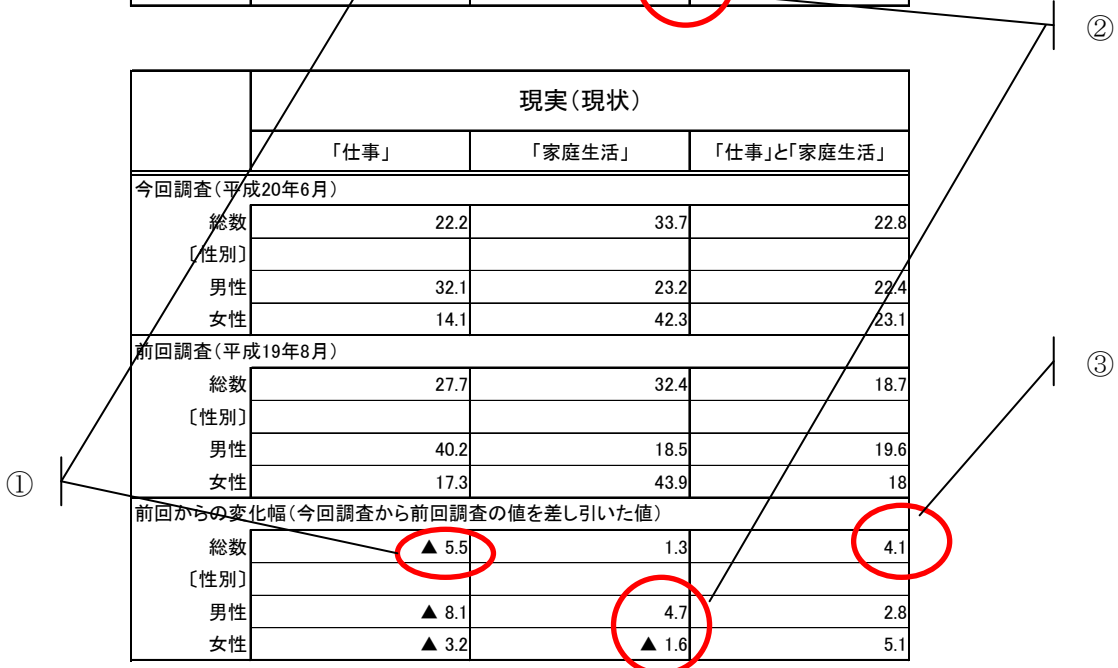
(5) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望優先度と現実の
前回調査（平成19年8月）からの変化

《ポイント》

- ① 「仕事」を優先したい人の割合及び「仕事」を現実に優先している人の割合は、前回調査に比べて、それぞれ5.9%、5.5%減少している。
- ② 「家庭生活」を優先したい人の割合は、男性で6.9%増加し、女性で1.7%減少した。また、「家庭生活」を現実に優先している人の割合も、男性で4.7%増加し、女性で1.6%減少した。男性では、仕事優先から家庭生活優先に意識が変化したことが窺える。
- ③ 「仕事」と「家庭生活」をともに現実に優先している人の割合は、前回調査に比べて、4.1%増加している。

		希望優先度		
		「仕事」	「家庭生活」	「仕事」と「家庭生活」
今回調査(平成20年6月)				
〔性別〕	総数	5.3	29.9	26.3
	男性	7.3	26.4	27.6
	女性	3.8	32.8	25.3
前回調査(平成19年8月)				
〔性別〕	総数	11.2	27.7	27.7
	男性	18.6	19.5	29.2
	女性	5.1	34.5	26.4
前回からの変化幅(今回調査から前回調査の値を差し引いた値)				
〔性別〕	総数	▲ 5.9	2.2	▲ 1.4
	男性	▲ 11.3	6.9	▲ 1.6
	女性	▲ 1.3	▲ 1.7	▲ 1.1

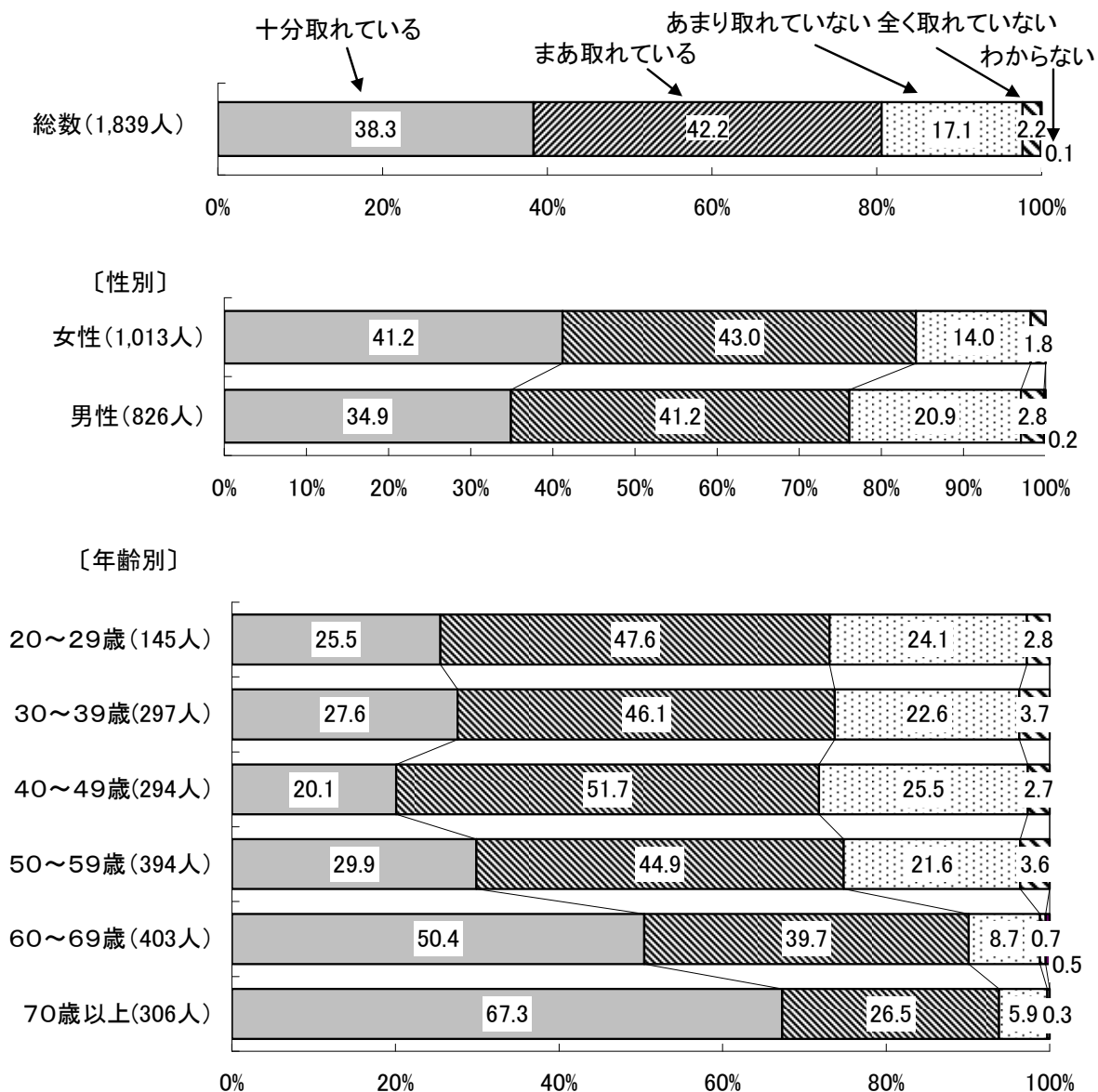
		現実(現状)		
		「仕事」	「家庭生活」	「仕事」と「家庭生活」
今回調査(平成20年6月)				
〔性別〕	総数	22.2	33.7	22.8
	男性	32.1	23.2	22.4
	女性	14.1	42.3	23.1
前回調査(平成19年8月)				
〔性別〕	総数	27.7	32.4	18.7
	男性	40.2	18.5	19.6
	女性	17.3	43.9	18
前回からの変化幅(今回調査から前回調査の値を差し引いた値)				
〔性別〕	総数	▲ 5.5	1.3	4.1
	男性	▲ 8.1	4.7	2.8
	女性	▲ 3.2	▲ 1.6	5.1



(6) 「家庭生活」のための時間は取れているか

《ポイント》

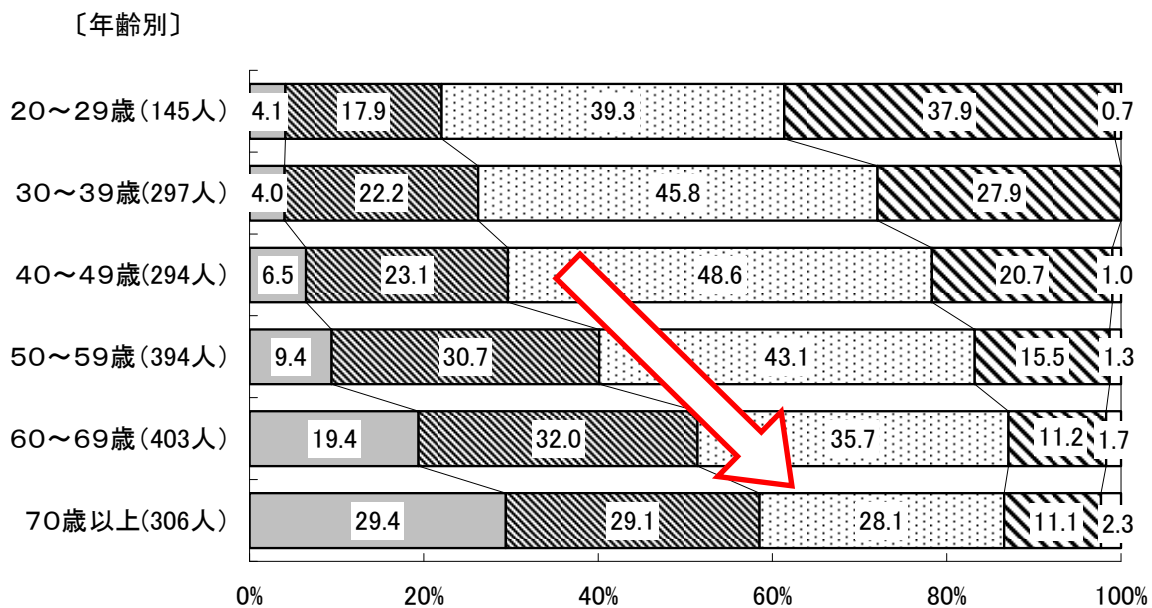
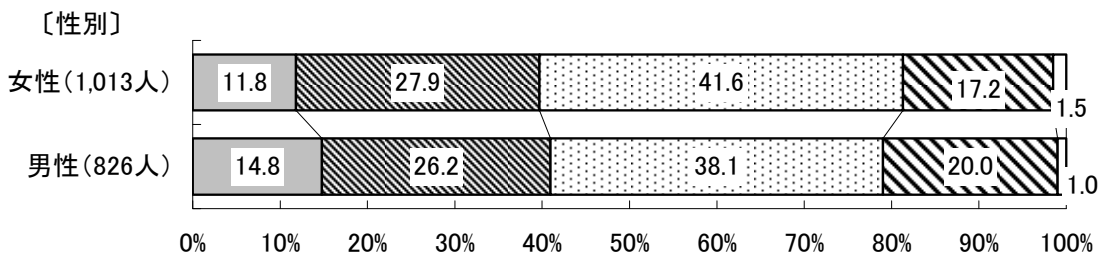
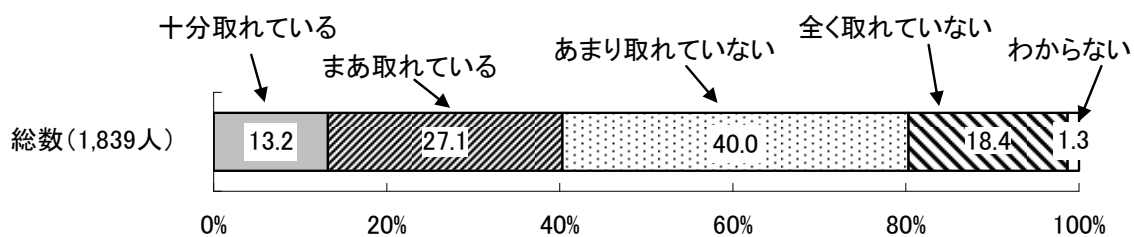
- 「家庭生活」のための時間が「取れている（「十分取れている」と「まあ取れている」の合計）」人の割合は約8割となっている。
- 男女別にみると、「取れている」人の割合は、女性が男性より1割程度高くなっている。
- 年齢別にみると、20歳代～50歳代で「取れている」人の割合は低く、60歳代、70歳以上で高い。



(7) 「地域・社会活動」に参加するための時間は取れているか

《ポイント》

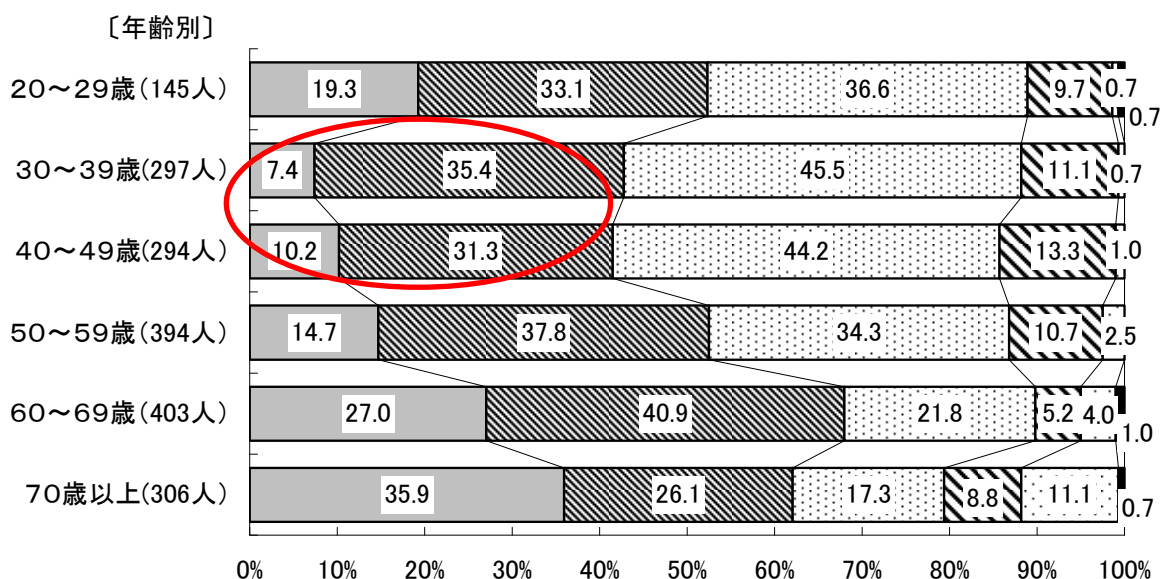
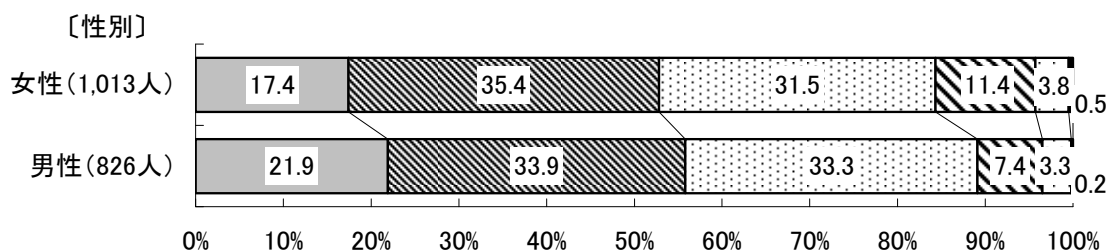
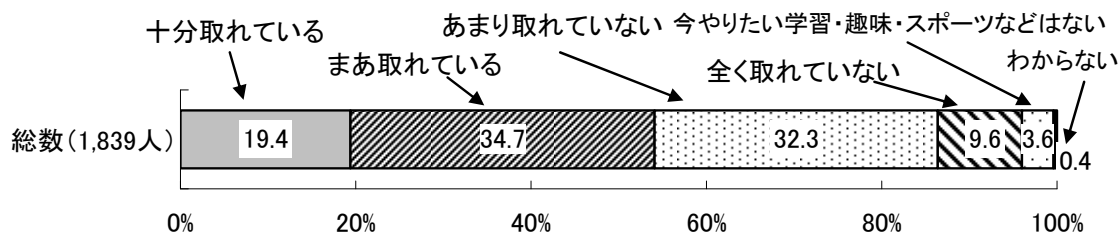
- 「地域・社会活動」に参加するための時間が取れている人の割合は約4割となっている。
- 年齢別にみると、「取れている」人の割合は、年齢が高いほど高い。



(8)「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなど」のための時間は取れているか

《ポイント》

- 「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなど」のための時間が取れている人の割合は5割強となっている。
- 男女別にみると、取れている人の割合は、男性でやや多い。
- 年齢別にみると、取れている人の割合は30歳代、40歳代で低い。



(9) 「休養」のための時間は取れているか

《ポイント》

- 「休養」のための時間が「取れている」人の割合は約7割となっている。
- 男女別にみると、「取れている」人の割合の差は、ほとんどみられないが、「十分取れている」人は男性の方が多い。
- 年齢別にみると、「取れている」人の割合は20歳代～50歳代で低く、60歳代、70歳以上で高くなっている。

